

# 国語科 学習指導案

一. 指導期間 平成〇〇年〇月〇日(〇)～〇月〇日(〇)

二. 指導学級 京都市立〇〇中学校二年生 〇組

三. 育成をめざす言語能力

① 「人物紹介パンフレットを作ろう」

・自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を考えること

書くこと(1)ーイ

② 「短歌を味わう」

・文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること

読むこと(1)ーイ

・事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと

書くこと(1)ーウ

・古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)アー(イ)

四. 教材名

① 「人物紹介パンフレットを作ろう 情報を編集する」

② 豊かな言葉 「短歌を味わう」

五. 教材の目標

① 伝えたいことが明確に伝わるように、効果的な紙面構成を考える。

② 短歌について理解を深め、作品を読み味わう。

六. 学習活動における具体の評価規準

短歌を味わう	人物紹介パンフレット			
・短歌に歌われた情景を想像し、表現の特徴に注目して音読している。	・紹介したい人物についての情報を集めている。	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	
・教科書を読んで、短歌に歌われた情景を理解することができるとができる。				
・自分の体験や想像したことが伝わるように短歌を創作することができるとができる。	・どの情報をメインに構成するかを決め、集めた情報を整理することができるとができる。	書く能力		
・歌中の心ひかれた部分や語句について、自分の解釈をもつことができるとができる。	・パンフレットのキャッチコピーとして、ふさわしい表現を工夫することができるとができる。	言語についての 知識・理解・技能		

七. 指導計画

プロセスⅡ【鑑賞や創作を通して、短歌に込められた歌人の心情を読み取り、人物パンフレットに生かす。】				プロセスⅠ【見通しをもつ。】		時数
⑤	④	③	②	①		学習内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作した短歌について、感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌を創作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三人の歌人について、教科書を参考に調べる。</li> <li>・教P228「短歌十二首」を読み、心引かれた部分や情景を次時の参考にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の歌人が詠んだ三首について、情景や心情を、本文を活用して鑑賞する。</li> <li>・表現の美しさが伝わるように音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の学習の流れを知る。(短歌や歌人について学び「人物紹介パンフレット(歌人編)」を作成する。)</li> <li>・身につけたい能力を知る。</li> <li>・教科書に出ている歌人について、パンフレットの構成を考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の学習の流れを知る。(短歌や歌人について学び「人物紹介パンフレット(歌人編)」を作成する。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの発表を聞き、心に残った表現を見つけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体験や想像したことが伝わるように短歌を創作することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書中の三人の歌人のうち一人を選択し、教科書と資料集を参考にして、情報をワークシートに書くことができる。</li> <li>・短歌十二首の中から、心ひかれたものを選んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌に歌われた情景を理解することができる。</li> <li>・短歌に歌われた表現が伝わるように音読している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を選択し、見やすい紙面構成を考えることができる。</li> <li>・今後の学習内容に沿った言語活動を考えている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の学習内容に沿った言語活動を考えている。</li> </ul>
		○		○	○	関
						話
	○			○	○	書
						読
						言
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇全員の短歌を無記名で貼り出すか、配付しておくことにより、スムーズな交流ができるようにする。</li> <li>・一人1分で工夫した点などを発表する。</li> </ul> <p>「ワークシート(短歌交流)⑤」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇短歌のつくり方や、同じ年代が詠んだものを紹介することにより、イメージをもたせ、つくることのできるようにする。</li> <li>・創作することで歌人の背景や気持ちを想像させパンフレットに生かす。</li> </ul> <p>「ワークシート(私の短歌)④」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇教科書記載内容の活用を指示することにより、全員が下書きをできるようにする。</li> <li>・発展教材(十二首)の歌人でもよいことを指示する。</li> </ul> <p>「ワークシート③」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇パンフレットに載せる歌人が創った短歌を鑑賞し、音読することにより、歌人の気持ちを想像できるようにする。</li> </ul> <p>「ワークシート②」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「学習活動の流れ」と「身につけたい力」を提示することにより、教材の見通しと言語活動のイメージをもたせ、主体的な学びや学ぶ意欲につなげる。</li> </ul> <p>「ワークシート(学習計画)」「ワークシート①」 「構成用紙(A4)」</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇支援</li> <li>・留意点</li> </ul>

プロセスⅢ【必要な情報を選択し、人物紹介パンフレットを作成する。】						時数
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥		
<ul style="list-style-type: none"> <li>完成したパンフレットの交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本のパンフレット、発展のパンフレットともに清書し、完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの中で、お互いの活動の様子を参考にしながら、パンフレットの下書きをする。</li> <li>参考になるところやアドバイス、前回よりもよくなったところを交流し合い、推敲する。</li> <li>基本のパンフレットが完成した生徒は発展のパンフレットに進む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本のパンフレットが完成した生徒は発展のパンフレットに進む。</li> <li>グループの中で、お互いの活動の様子を参考にしながら、パンフレットの下書きをする。</li> <li>参考になるところやアドバイスを交流し合い、推敲する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの選択した情報を参考にしながら情報を貼ったり資料を付け足したりして、パンフレットの下書きをする。</li> <li>グループの中で、お互いの活動の様子を参考にしながら、パンフレットの下書きをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三時に収集した情報や自分が考えた短歌の中からパンフレットに載せるものを、構成を考えて選択する。</li> <li>お互いの選択した情報を参考にしながら情報を貼ったり資料を付け足したりして、パンフレットの下書きをする。</li> </ul>	学習内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いのパンフレットについて、いいところやもつと工夫できたところを明確に伝え合うことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができている。</li> <li>自分の意見を付箋紙に書き、交流することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができている。</li> <li>自分の意見を付箋紙に書き、交流することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの情報をメインに構成するかを決めることができている。</li> </ul>	評価規準
					○	関
						話
					○	書
						読
					○	言
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇司会者を立てることにより、意見の交流が確実に進むようにする。</li> <li>◇相手に伝える点を明確に指示することで、意図をもって交流することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇文章をお互いに読み合うことにより、相手に伝える内容に推敲できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇付箋紙には具体的に書くように指導することにより、意見を明確に伝えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇付箋紙には具体的に書くように指導することにより、意見を明確に伝えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇指導者が良いと思う資料を具体的に褒め、提示することにより、良い書かれ方のパンフレットをイメージして書き進められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇指導者が良いと思う資料を褒めることにより、自信をもって書き進められるようにする。</li> <li>基本として教科書中の歌人のパンフレットを作る。その後発展学習として、歌人以外のものを作ってもよいことを伝える。</li> </ul>	◇支援 ・留意点

八・本時

本時の目標：学習計画を立て、パンフレットの構成を考えることができるようにする。  
 本時の展開：単元構想 I ①

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面①②
導入 15分	①本時のねらいの提示をする。(3分) ねらい ①学習計画をたてよう。 ②見やすいパンフレットの構成を考えよう。 ②二つの教材を通した学習の流れをワークシートで提示し、学習計画(言語活動計画)をたてさせる。(10分)	①ねらいをワークシートに入する。 ②教材「人物パンフレットを作ろう」と「短歌を味わう」の活動の流れを知り、学習計画を立てる。 ③この教材を学ぶことでどのような力がつくのかをワークシートを通して知る。(2分)	◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・指導上の留意点 ◇支援 評価①今後の学習内容に沿った言語活動を考えている。(関)「ワークシート」
展開 25分	③この教材を通して身につけたい力(生徒にはゴシック体の五点を中心に、ワークシート中に提示する)： 一・短歌の中の語句の効果的な使い方を理解し、表現の美しさを読み味わう。(読(1)ア・イ) ↓「短歌の中の素敵な言葉を見つける力」 二・短歌のもつリズムに親しみ、短歌に関する知識や技能を理解する(伝(1)イ・ア) ↓「短歌の作り方を理解する力」 三・心情が伝わるように工夫して、短歌を創作する(書(1)―ウ)(書(2)―ア) ↓「心の伝わる短歌を作ることができる力」 四・短歌の内容や表現について感想を交流する(読(2)―ア) ↓「話し合うことができる力(お互いの短歌の内容やパンフレットの構成について)」 五・構成や説明のしかたを工夫して、自分の伝えたい事柄を明確に書く。(書(1)―イ・ウ) ↓「伝えたいことを分かりやすく伝える力」	④「北原白秋」「正岡子規」「石川啄木」という名前を知り、紹介するための項目として必要なものを相談する。 ⑤他のグループから出た意見もワークシートに書き込む。 ⑥例を見ながら、見やすくレイアウトするための条件を相談する。	◇話し合いが進まないグループには、教科書には「出身地」「生没年」「作品名」「作品」が書かれていることを助言し、話し合うことができるようにする。 ・「字の丁寧さ」「色使い」「字や情報の分量」「図や表・イラストの使い方」「内容の順番」「タイトルの位置」に気づかせる。
④パンフレットにする人物を提示し、パンフレットの構成を4人グループで考えるよう指示する。(5分) ⑤グループごとに一人指名し、項目を発表させる。板書し、全体で共有できるようにする。(5分) ⑥各班にパンフレットの例を配付し、「見やすい紙面」について、四人グループで話し合うよう指示する。(5分)			

<p>展開</p>	<p>指導者の活動</p> <p>⑦机を戻すよう指示し、一人に一枚、白いA4用紙を配付する。そこにどのような情報を載せていくのか、構成を考えて書くよう指示する。</p> <p>(10分)</p>	<p>生徒の活動</p> <p>⑦パンフレットに掲載しようと思う情報を、枠の大きさも含めて考え、白い用紙に書いていく。</p>	<p>・指導上の留意点 ◇支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価場面①②</span></p> <p>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価②</span>必要な情報を選択し、見やすい紙面構成を考えることができる。(書)「ワークシート」</p> <p>・用紙はA4サイズを使用する。用紙の折り方(二つ折り・三つ折り等)は、個人の考えを重視する。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>⑧本時の活動の振り返りを指示する。</p>	<p>⑧ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p>	<p>・自己評価項目</p> <p>「今後の学習活動を見通すことができたか」</p> <p>「この教材を学ぶことでつきたい力を考えることができたか」</p> <p>「見やすいパンフレットにするための条件を理解することができたか」</p> <p>「必要な情報が載ったパンフレットの構成を考えることができたか」</p>

本時の目標：短歌に詠われた情景を鑑賞し、その表現が伝わるように音読することができるようにする。  
 本時の展開：単元構想Ⅱ②

導入 十分	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面①②
	<p>① 本時のねらいの提示をする。(2分)</p> <p>ねらい ①短歌にうたわれた情景を鑑賞しよう。          ②「短歌」について小学校時に学習したこととの復習をする。(5分)</p> <p>○五・七・五・七・七の三十一音で形成されていること(定型)          ○俳句とは違い、季語が必要でないこと          ○数え方は「一首」ということ          ○短歌には作者の気持ちが詠まれていること</p> <p>③「鑑賞する」ということについて説明する。(3分)          ○作者の心情：季節・場所・作者はどこにいて何をしている等、具体的に想像し、考える。</p>	<p>①ねらいをワークシートに記入する。</p> <p>②表現が伝わるように音読しようし、意見を出す。</p> <p>③短歌を鑑賞する方法を具体的に知ってイメージすること、次の活動につなげる。</p> <p>④掲示された短歌を教師の範読に続き二回ずつ読む。</p> <p>⑤音読し、三つのナゾの答えを本文から探す。</p>	<p>◇「短歌の中の素敵な言葉を見つける力」と書いた掲示物を黒板に貼ることにより、身につけたい力を意識できるようにする。</p> <p>・この後「鑑賞」をするために、「短歌には作者の気持ちの詠まれていること」をおさえる。</p> <p>・「短歌」と「俳句」の違いを明確にする。</p> <p>・「草わかば…」若葉の緑色と赤鉛筆の赤色の対照がかわいらしいこと          ・「瓶にさす…」↓作者が病床から藤の花を見ていること          ・「ころよき…」↓息もつかず全力で仕事をしたあとの疲れだから快いこと</p> <p>・「草…」各句のあとに間をおき、終わりの音を長めに引く。          ・「瓶に…」三区目のあとに少し長い休止をおく。          ・「ころよき…」二句と三句の間に長い休止をおく。三句・四句はなだらかに続く。</p>
展開① 二十分	<p>④「草わかば…」「瓶にさす…」「ころよき…」の三首を提示し、二回ずつ範読する。</p> <p>⑤『三つのナゾ』を提示し、その答えを見つげるために教科書P54～P57を読ませる。</p> <p>・三つのナゾ</p> <p>一・白秋は、何を『いとしく』と感じたのか。二・子規は、なぜ花房の長さに注目しているのか。          三・啄木は、なぜ疲れているのに『ころよき』と言っているのか。</p>	<p>⑥三首の問いについて、グループで話し合い、答えを書く。</p> <p>⑦板書を写しながら鑑賞のポイントをおさえる。</p>	<p>・司会を決め、話し合いを進めさせる。</p>
	<p>⑥グループ活動(四人)</p> <p>三つのナゾについて話し合い、答えを各自のワークシートに書くよう指示する。</p> <p>⑦発表された意見からポイントを板書する。</p> <p>⑧グループ内で音読し、お互いに聞き、正しく区切って音読することができているかを伝え合うよう指示する。</p>	<p>⑧本文にあるように区切って音読する。</p>	

	指導者の活動	生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点 ◇支援 <b>評価場面</b>①②</li> </ul>
展開② 十分	<b>⑨個人活動</b> 本文とは違う歌を三首提示し、前回自分がパンフレットにしようとした決めた歌人の別の歌を鑑賞するよう指示する。	<b>⑨展開①</b> を参考にして、鑑賞文をワークシートに書く。	<b>評価①</b> 短歌に歌われた情景を理解することが出来る。(読)「ワークシート」
「石崖 <small>いしがき</small> に子ども七人腰 <small>しちにん</small> かけて河豚 <small>ふぐ</small> を釣り居 <small>を</small> り夕焼小焼 <small>ゆうやけこやけ</small> 」北原白秋 「くれなゐの二尺 <small>にしゃく</small> 伸びたる薔薇 <small>ばら</small> の芽の針 <small>は</small> やはらかに春雨 <small>はるさめ</small> の降る」正岡子規 「こころよく／われにはたらく仕事あれ／それを仕 <small>し</small> 遂 <small>と</small> げて死 <small>し</small> な <small>な</small> んと思 <small>お</small> ふ」石川啄木		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価項目</li> <li>「本文中の短歌に歌われた情景を理解することができたか」</li> <li>「本文以外の短歌に歌われた情景を理解することができたか」</li> <li>「本文中の短歌に歌われた表現が伝わるように音読することができたか」</li> <li>「本文以外の短歌に歌われた表現が伝わるように音読することができたか」</li> </ul>	
⑩鑑賞した内容が伝わる音読のしかたを 考えさせ、読むよう指示する。	<b>⑩間</b> を空けるところをワークシートに書き込む。 その後実際に読んでみて、工夫できる点は工夫する。	<b>⑩ワークシート</b> の「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。 自己評価点の理由も書き、より細かく振り返る。	
⑪本時の活動の振り返りをする。	⑪ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。 自己評価点の理由も書き、より細かく振り返る。		
五 分 ま と め			

本時の目標：一人の歌人について必要な情報を選択し、見やすい紙面構成を考えて枠の中に書き込む。

導入 十分	指導者の活動	生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点 ◇支援 <b>評価場面①</b></li> </ul>
<p>①ワークシートを配付し、本時のねらいの提示をする。</p> <p>本日のねらい 一人の歌人を紹介する適切な情報を集め、紙面構成を考えて書こう。</p>	<p>①ねらいをワークシートに記入する。</p>	<p>◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p>	
<p>②本時の「身につけたい力」を提示し、意識するよう指示する。</p>	<p>②提示されたものを見て、第1時の学習計画を思い出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は学習計画の項目に「身につけたい力」があったことを思い出させ、(時間があれば)もう一度見るよう指示する。</li> </ul>	
<p>短歌の作り方を理解し、創作しようとする力(調べながら、歌人が短歌を作った気持ちを理解し、創作につなげる)</p> <p>③教科書P228「短歌十二首」を示し、その中の十二人から選択しても構わないことを指示する。</p>	<p>③短歌十二首を黙読し、気に入った短歌があればその中からパンフレットに紹介する歌人を選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その中の十二人から選択しても構わないが、資料としては「北原白秋」「正岡子規」「石川啄木」のほうがたくさん揃っていることを伝える。</li> </ul>	
<p>④パンフレット出来上がり例を提示し、構成を考えるよう指示する。</p>	<p>④出来上がりをイメージし、第1時に考えた項目を参考に、配付された用紙の枠に書き込む項目を選択する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目を書き込む枠(別紙)を数種類用意し、配付する。</li> <li>・色上質紙はA4を配付することを伝える。用紙の折り方(二つ折り・三つ折り等)は、各自が考えることを伝える。</li> </ul>	
<p>情報を書く時間を、数人の民の生徒の意見を基に設定する。(五分)</p>	<p>三枚書くために何分が自分に必要なかを考え、一時間の中の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一枚の枠を書くのに何分かかるのかを尋ねてから三枚分を尋ねる。(一枚五分程度が望ましい)</li> <li>・数人の意見の中から十五分程度(できれば)を設定し、時計の針を見るように指示し、「( )分になったらグループで見せ合う時間を五分とります。」と伝える。</li> </ul>	
<p>⑤教科書と便覧を使用して調べ、選択した枠の中に鉛筆かシャープペンシルで三枚に下書きをするよう指示する。(十五〜二十分)</p>	<p>⑤教科書・便覧・用意された資料の中から、必要な情報を選択し、選んだ枠の中に下書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データが多くなりすぎるのを防ぐため、インターネットは使用しない。</li> <li>・少なくとも三枚をこの時間に下書きする。</li> <li>・清書する時間は第六時にあることを伝える。</li> </ul>	
<p>⑥グループ活動 お互いの下書きを見合い自分の参考にするよう指示する。(五分)</p>	<p>⑥お互いの作品を見合い、良いところを伝え合ったり、自分の参考にしたりする。</p>	<p>評価①必要な情報を選択し、見やすい紙面構成を考えて枠の中に書き込むことができる。(書)「ワークシート」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの書いた内容や選んだ項目から、自分のパンフレットの構想を広げる。</li> </ul>	
<p>⑦机を戻し、グループの作品を参考にして、個人活動で下書きを続けるように指示する。(五〜十分)</p>	<p>⑦各自、下書きの学習活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に振り返りをする時間を引いた残り時間を生徒に伝える。</li> </ul>	
展開 三十五分			

	<p>まとめ 五分</p>
<p>指導者の活動</p>	<p>⑧ 本時の活動の振り返りをするよう指示する。</p> <p>⑨ 付箋とクリップを配付し、ワークシート・成果物を回収する。</p>
<p>生徒の活動</p>	<p>⑧ ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p> <p>⑨ 付せん紙に名前を書き、クリップで下書きを挟んで成果物を提出する。ワークシートも提出する。</p>
<p>・指導上の留意点</p>	<p>・自己評価項目 「パンフレットに載せるための必要な情報を選び、書くことができたか」 「見やすい紙面構成を考えて書くことができたか」</p> <p>・第六時まで預かっておく。その間に指導者は目を通し、支援するところをみつける。</p> <p>・下書き終了時、第六時には「はさみ」「のり」「色鉛筆」「水性ペン」が必要なことを連絡する。</p>

本時の展開：単元構想Ⅱ④ 本時の目標：自分の体験や想像したことが伝わるような短歌を創作することができるようにする。

導入 十五分	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
<p>①ワークシートを配付し、本時のねらいの提示をする。</p> <p>②本時の「身につけたい力」を提示し、意識するよう指示する。</p> <p>③教科書の一首（北原白秋）と新しく用意した二首を黒板に掲示し、違いを見つけるよう指示する。</p> <p>④掲示した六首にはどのような気持ちが表されているかを考えるよう指示する。</p>	<p>①ワークシートを配付し、本時のねらいの提示をする。</p> <p>②本時の「身につけたい力」を提示し、意識するよう指示する。</p> <p>③教科書の一首（北原白秋）と新しく用意した二首を黒板に掲示し、違いを見つけるよう指示する。</p> <p>④掲示した六首にはどのような気持ちが表されているかを考えるよう指示する。</p>	<p>①ねらいをワークシートに記入する。</p> <p>②第1時の学習計画を見て、「身につけたい力」を確認する。</p> <p>③掲示された六首の短歌を見比べ、その違いを見つける。</p> <p>④既習の短歌はワークシートや教科書を見ながらその内容を思い出す。また、新たに提示された現代短歌については表現されている気持ちを考える。そして自分の創作テーマの参考にする。</p> <p>⑤四人グループで相談しながら各自一首を作る。</p> <p>できたものをグループの中で発表し合う。</p> <p>各グループから一首、よいと思ったものを発表する。</p> <p>⑥各自短歌を作り、ワークシートに記入する。</p>	<p>◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p> <p>・指導者は、生徒に学習計画の「身につけたい力」の項目をもう一度見て確認するよう指示する。</p> <p>◇明治時代に詠まれた近代短歌と現代短歌の比較をすることで、「文語調と口語調の違い」「定型のリズムは同じであること」「現代短歌は詠まれている気持ちが伝わりやすいこと」などに気づくことができるようにする。</p> <p>・現代短歌に親しみをもち、創作意欲がわくようにする。</p> <p>・同年代の中学生が詠んだ短歌や現代の歌人が詠んだ短歌を三首紹介する。「恋」「日常の風景」「家族」に分けられる短歌を例示し、各自のテーマを定めやすくする。</p> <p>・提示する上の句：『部活動 日も暮れかけて帰る道』『夏休み 近づいてきた すぐそこ』 ここに『梅雨過ぎて』『さやさと』</p> <p>・一人では考えにくい生徒は、まずグループで相談しながら一首作ることで発想をふくらませることができるようになる。</p> <p>・生徒の様子を見ておおよその生徒が創作できたところに、グループ内の発表を促す。</p> <p>・しっかり発表者のほうを向き、口を閉じて聞き、グループごとに拍手をするように全体に指示する。</p> <p>◇評価自分の体験や想像したことが伝わるように短歌を作ることができる。（書）（ワークシート）</p> <p>・一人では考えにくい生徒は、グループで相談することによって発想をふくらませる。</p> <p>◇創作が進まない生徒には初句を例示するなどの助言をすることで、創作できるようにする。</p>
<p>⑦本時の活動の振り返りをする。</p> <p>⑧ワークシートを回収する。</p>	<p>⑦ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p> <p>⑧ワークシートを提出する。</p>	<p>⑦ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p> <p>⑧ワークシートを提出する。</p>	<p>・自己評価項目</p> <p>「グループ内で積極的に相談して一首を選ぶことができたか」</p> <p>「自分の体験や気持ち、想像したことが伝わる短歌を創作できたか」</p>

	指導者の活動	生徒の活動	・指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入	①ワークシートを配付し、本時のねらいの提示をする。 ②本時の「身につけたい力」を提示し、意識するよう指示する。	①ねらいをワークシートに記入する。 ②第1時の学習計画を見て、「身につけたい力」を確認する。	◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・指導者は、生徒に学習計画の「身につけたい力」の項目をもう一度見て確認するよう指示する。
十 十五分	③前時に生徒が創作した短歌を一覧にしてプリントしておき、配布する。 ④グループ活動グループ内で自分の短歌を発表し、良いと思ったところなどをグループで交流するよう指示する。(十五分)	③配布された短歌に目を通し、読む。 ④グループ内で自分の短歌を二回音読した後、どのような情景や気持ちを詠んだのかを発表する。また、発表者の短歌について、良いと思ったところや感想などを交流する。	◇「聞く態度」を全体に指導することにより、発表者が自分の創作した短歌について自信をもつことができるようにする。 ・「聞く態度」：しっかり発表者のほうを向き、口を閉じて聞く。一人ずつしっかりと拍手をする。など。 ・机間指導しながら、発表者の声が小さければグループ全体に聞こえる声量で言うように指導する。
展開 三十 二十五分	⑤グループの中で紹介したい作品を選ぶよう指示する。選ばれた人は、前に出て④と同じように発表することを伝える。(十～十五分)	⑤グループの中で一人紹介したい作品を選ぶ。選ばれた生徒は、前に出て④と同じように二回音読し、短歌に詠んだ情景や気持ちを発表する。	◇全員、発表者の方を向き、しっかりとした態度で聞くように指導することで、発表者が自信をもって発表できるようにする。 ・時間があれば、発表者の短歌について、良いと思ったところなどを全体で交流できるとよい。
五 十分	⑥本時の活動の振り返りをする。 ⑦ワークシートを回収する。	⑥ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。 ⑦ワークシートを提出する。	・自己評価項目 「グループ内の全員に届くように、創作した短歌を発表することができたか」 「グループ内で積極的に相談し、心に残る表現を見つけることができたか」

本時の展開：単元構想Ⅱ⑥ 本時の目標：歌人の背景や作品にせまる「人物紹介パンフレット（歌人編）」を完成できるようにする。

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入 十分	<p>①ワークシートを配付し、本時のねらいの提示をする。</p> <p>②本時の「身につけたい力」を提示し、意識するよう指示する。</p> <p>身につけたい力 情報を集め、整理する力</p>	<p>①ねらいをワークシートに記入する。</p> <p>②提示されたものを見て、第一時の学習計画を思い出す。</p>	<p>◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p> <p>・指導者は学習計画の項目の「身につけたい力」を（時間があれば）もう一度見るよう指示する。</p> <p>・「作成するときに気をつけること」は以下の四点。</p> <p>①パンフレットのメインの情報を選ぶ。</p> <p>②丁寧に清書する。</p> <p>③工夫して、見やすく適切な紙面構成にする。</p> <p>④自分で満足できるパンフレットになるようにする。</p>
展開 三十分	<p>④回収しておいたパンフレットの下書きを返却する。（三～五分）</p> <p>⑤グループ活動グループの形態になり、お互いの活動の様子を見て相談しながら下書きや清書を完成させることを指示する。（十五分）</p>	<p>④返却されたパンフレットの下書きを見て、第三時の内容を思い出す。</p> <p>⑤お互いの下書きを見せ合ったり、紙面構成の相談をしたりしながら活動をすすめる。</p>	<p>◇回収したものを返却するまえに、工夫が感じられる作品の内容を全体に紹介することにより、各自、工夫された構成のイメージをもつことができるようにする。</p> <p>・作業の前に机上を片付けることを指示し、各自が集中できるようにする。</p> <p>評価 どの情報をメインに構成するかを決め、集めた情報を整理して、パンフレットを作成できる。（書）「人物紹介パンフレット」</p> <p>・この一時間でなるべく完成できるように次時からは、別の人物のパンフレットに取りかかっても構わないことと、各自で資料を用意することを伝える。</p> <p>・お互いによいところをほめあうように指示する。</p>
まとめ 五分	<p>⑥グループ内で見せ合い、お互いの参考になるところを見つけるよう指示する。（三～五分）</p> <p>⑦グループ隊形のまま、パンフレット作成に戻るよう指示する。（十分）</p> <p>⑧本時の活動の振り返りをする。</p> <p>⑨ワークシートを回収する。</p>	<p>⑥グループでお互いの作品を見たり、進捗状況を確認したりして、自分の参考になるところを見つける。</p> <p>⑦⑥で参考にしたものを取り入れたり資料から新たな情報を加えたりして、パンフレットの完成を目指す。</p> <p>⑦ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p> <p>⑧ワークシートを提出する。</p>	<p>・自己評価項目</p> <p>「人物パンフレットのメインの情報を選ぶことができたか」</p> <p>「丁寧に清書することができたか」</p> <p>「見やすい紙面構成を工夫することができたか」</p> <p>「満足する人物紹介パンフレット（歌人編）を作ることができたか」</p> <p>・「三十分でこれだけのものが完成した」と生徒が思い、自信をもって次の発展のパンフレットに進めるよう、指導者は「作業を少しでも進め、生徒一人ひとりに達成感を味わわせること」と「できるだけ多くの生徒の作品をほめること」を心がける。</p>

本時の展開：単元構想Ⅲ⑦ 本時の目標：集めた情報を整理してパンフレットの紙面を構成することができるようにする。

導入 五分	指導者の活動	生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上の留意点 ◇支援</li> <li>評価場面</li> </ul>
五分	<p>①ワークシートを配付し、本時のねらいと「身につけたい力」の提示をする。</p> <p>本時のねらい 情報を整理し構成を考えよう。</p>	<p>①ねらいをワークシートに記入する。</p> <p>身につけたい力</p>	<p>◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p> <p>わかりやすく伝えるために整理して書く力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の三点…</li> <li>「パンフレットに載せる情報を選ぶ。」</li> <li>「字を丁寧に書く。」</li> <li>「見やすく適切な紙面構成にする。」</li> </ul>
展開 三十五分	<p>②「作成するときに意識すること」を板書し、まとめて自己評価する三点を紹介し、意識するよう指示する。</p> <p>③グループ活動</p> <p>グループ形態になり、お互いの活動の様子を見て相談しながら下書きを始めることを指示する。</p> <p>(二十五分)</p>	<p>②意識して取り組む三点を理解する。</p> <p>③お互いの下書きを見せ合ったり、紙面構成の相談をしたりしながら活動をすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業の前に机を片付けるようにする。</li> <li>評価 どの情報をメインに構成するかを決め、集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができる。(書)</li> <li>「人物紹介パンフレット」</li> </ul> <p>◇「歌人パンフレット」の工夫が感じられる作品の内容を全体に紹介し、各自、工夫された構成のイメージがわくようにする。(例：便覧や教科書の内容を自分の言葉に直して書いてあるものや、丁寧に書かれているもの、また、歌人の背景がよくわかるものなど。)</p>
まとめ 五分	<p>④グループ内で見せ合い、お互いの参考になるところ・アドバイスしたいところを付せん紙に書き相手に伝えるよう指示する。(五分)</p> <p>⑤付せん紙のアドバイスを读んだ感想をグループの中で伝え合う。(五分)</p> <p>⑥本時の活動の振り返りをする。</p>	<p>④グループ内のお互いの作品を見て、いいと思うところを一言ずつ付せん紙に書き、作品に貼って相手に伝える。</p> <p>⑤司会者は一人ずつ指名し、意見を発表してもらおう。</p> <p>⑥ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価項目</li> <li>「パンフレットに載せる情報を選ぶことができたか」</li> <li>「字を丁寧に書くことができたか」</li> <li>「見やすく適切な紙面構成にすることができたか」</li> </ul> <p>・残り時間と作成過程を照らし合わせ、間に合わないようであれば、家庭で学習できるように伝える。</p>
	<p>⑦次時の予告をする。</p>	<p>⑦次時の活動内容を知り、計画を立てる。</p>	

本時の展開：単元構想Ⅲ⑧ 本時の目標：情報を整理したり推敲したりすることができるようにする。

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 評価場面
導入 五分	①ワークシートを配付し、本時のねらいと「身につけたい力」の提示をする。 本日のねらい 情報を整理し、推敲しよう。	①ねらいをワークシートに記入する。	・指導上の留意点 ◇支援 評価場面 ・書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。
展開 三十五分	②＊作成するときに意識すること ＊と板書し、まとめて自己評価する三点を紹介し、意識させる。 ③グループ活動 グループになり、お互いの活動の様子を見て相談しながら進めてよいことを指示する。 (二十五分)	②意識して取り組む三点を理解する。 ③お互いの作品を見せ合ったり、紙面構成の相談をしたりしながら活動をすすめる。	・自己評価の三点 「字を丁寧に書く」 「見やすく適切な紙面構成にする」 「完成した部分を読み返し、直すところがあれば推敲する」 ・「歌人パンフレット」の工夫が感じられる作品の内容を全体に紹介し、各自、工夫された構成のイメージがわくようにする。 (例：便覧や教科書の内容を自分の言葉に直して書いてあるものや、丁寧に書かれているもの、また、歌人の背景がよくわかるものなど)。 ・作業の前に机を片付けるようにする。 評価 集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができる。(書)「人物紹介パンフレット」
まとめ 五分	④グループ内で見せ合い、お互いの参考になるところ・アドバイスしたいところ・前回よりもよくなったところ等を付せん紙に書き、相手に伝えるよう指示する。 (五分) ⑤付せん紙のアドバイスを讀んだ感想をグループの中で伝え合うよう指示する。 (五分)	④グループ内のお互いの作品を見て、いいと思うところを一言ずつ付せん紙に書き、作品に貼って相手に伝える。 ⑤司会者は一人ずつ指名し、意見を発表してもらう。	・自己評価項目 「字を丁寧に書くことができたか」 「見やすく適切な紙面構成にすることができたか」 「完成した部分を読み返して推敲することができたか」 ・資料：司会者カード ・付せん紙により伝えられた「いいところ」や「アドバイス」を讀んで感じたことや改善しようと思ったことを中心に伝え合う。
	⑦次時の予告をする。	⑥ワークシートの「自己評価」を書くことにより、本時の学習内容の振り返りをする。 ⑦次時の活動内容を知り、計画を立てる。	・残り時間と作成過程を照らし合わせ、間に合わないようであれば家庭で学習をするよう指示する。

	指導者の活動	生徒の活動	指導上の留意点 ◇支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価場面</span>
導入 五分	①ワークシートを配付し、「本時のねらい」と「身につけたい力」の提示をする。 本時のねらい 作品の紙面構成・文章を整理しよう。	①ねらいをワークシートに記入する。	◇書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。
展開 三十五分	②「作成するときに気をつけること」として、最後に自己評価する三点を紹介し、意識させる。 ③ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループ活動</span> グループになり、お互いの活動の様子を参考にしながら前時の続きを書き、完成させることを指示する。(二十五分)	②意識して取り組む三点を理解する。 ③お互いの作品を見せ合ったり、紙面構成の相談をしたりしながら活動をすすめる。	・自己評価の三点： 「字を丁寧に書く」 「見やすく適切な紙面構成にする」 「完成した部分を推敲し、整った文章のパンフレットにする」 ◇工夫が感じられる生徒の作品を全体に簡単に紹介することにより、各自、工夫されたパンフレットのイメージをもつことができるようにする。(例：自分の言葉をうまく用いて書いてあるものや、丁寧に字で書かれているもの、また、紹介される人物の背景がよくわかるものなど。) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span> 集めた情報を整理して、パンフレットを作成することができる。(書)「人物紹介パンフレット」
展開 三十五分	④グループ内で見せ合い、お互いの参考になるところ・前回よりもさらに良くなったところを付せん紙に書き、相手に伝えるよう指示する。(五分) ⑤付せん紙のアドバイスを讀んだ感想をグループの中で伝え合う。(五分)	④グループ内のお互いの作品を見て、いいと思うところを一言ずつ付せん紙に書き、作品に貼って相手に伝える。 ⑤司会者は一人ずつ指名し、意見を発表してもらう	・付せん紙には必ず自分の名前も書くよう指示する。 ・付せん紙が三時間分たまるので作品に対する自信がもて、交流への前向きな意欲がわくことを期待する。 ・資料：司会者カード ・付せん紙によって伝えられた「いいところ」や「アドバイスを讀んで感じたことや改善しようと思ったことを中心に伝え合う。 自己評価項目 「字を丁寧に書くことができたか」 「見やすく適切な紙面構成にすることができたか」 「完成した部分を推敲し、整った文章のパンフレットにすることができたか」 ・交流内容：「その人物を選んだ理由」 「工夫・苦労したところ」 「作成した感想」
まとめ 五分	⑥本時の活動の振り返りをする。 ⑦次回の学習内容の予告をする。 ・パンフレットの交流会をする。 ・完成させてくること。 ・交流内容を伝え合う練習をしつづけること。	⑥「自己評価」を書くことで、本時の学習内容を振り返る。 ⑦次回の学習内容を理解する。必要であれば各自メモをとる。	

	<p>指導者の活動</p>	<p>生徒の活動</p>	<p>・指導上の留意点 ◇支援 <b>評価場面</b></p>
<p>導入 五〜十分</p>	<p>①ワークシートを配付し、本時のねらいと「身につけたい力」の提示をする。 本日のねらい 発表を聞き合い、意見の交流をする。</p>	<p>①ねらいをワークシートに記入する。</p>	<p>・書くことにより、本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p>
	<p>②本時の自己評価の内容を確認する。</p>	<p>②全員、プリントを見て確認する。</p>	<p>・自己評価： 「自分の作成したパンフレットの工夫した点などをきちんと説明することができたか」 「お互いのパンフレットのいいところやさらに工夫できそうなところを見つけ、伝えることができるか」 「司会としてグループの話し合いをうまく進めることができたか」(司会者のみ)</p> <p>・指導者は、<u>交流会の内容</u>、<u>発言例</u>、<u>進行の仕方</u>などについて説明をする。</p>
<p>展開 三十分</p>	<p>③司会者を決め、司会者カードに沿って話し合いを進めるよう指示する。(五分)</p> <p>④グループ活動 グループの形態になり、司会者の進行のもとに交流会を進めるよう指示する。(二十五分)</p>	<p>③司会者は「司会者カード」を指導者から受け取る。</p> <p>④発表者以外の生徒は、発表者のパンフレットについて「いいところ」「もっと工夫できるところ」をワークシートに簡単に書く。発表後、お互いにそれを見ながら伝え合う。</p> <p>発表者は 「その人物を選んだ理由」 「工夫・苦労したところ」 「作成した感想」 を伝える。</p>	<p>◇毎時間、司会者を交代することにより、いずれ全員が司会者として活動できるようにする。</p> <p>・司会についての説明は、司会者の生徒だけでなく、全員に聞くよう指示する。</p> <p><b>評価</b> お互いのパンフレットについて、いいところとっと工夫できたところを伝え合うことができる。(話・聞) 「ワークシート・観察」</p>
<p>まとめ 五分</p>	<p>⑤本時の活動の振り返りをするよう指示する。</p>	<p>⑤「自己評価」を書くことで、本時の学習内容を振り返る。</p>	<p>・自己評価項目 「自分の作成したパンフレットの工夫した点等をきちんと説明することができたか」 「お互いのパンフレットのいいところやさらに工夫できそうなところを見つけ、伝えることができたか」 「司会としてグループの話し合いをうまく進めることができたか」(司会者のみ)</p>